

# なみの会



東京理科大学工学部建築学科 地震工学系研究室 OB/OG 会

## 第一回合同 OB/OG 会の開催に向けて

井口道雄

皆さんお変わりありませんか。

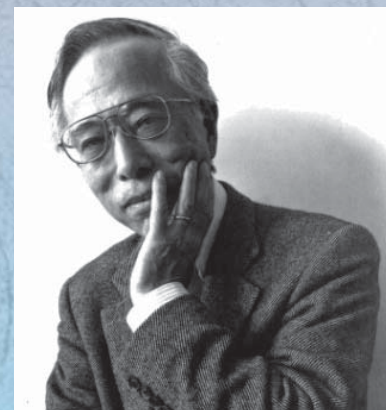
早いもので退職して 6 年半が経ちましたが、この間に一度、井口研の OB/OG 会を開きました。それから 5 年近くが経過し、日頃ご支援を頂いている OB の方々から、そろそろ次の OB/OG 会を開きませんかとお話があり、気には掛けていたのですが、色々の事情からそのままになっていました。

先般、永野先生から永野研と旧井口研の合同の OB/OG 会という思いも寄らぬご提案があり、まさに渡りに舟の思いで喜んで賛成しました。その後も永野先生が中心となり、日程の調整、会場の予約など準備を着々と進めていただき、第一回目の合同の OB/OG 会を開催することになりました。合同の OB/OG 会の名称を「なみの会」としたのも少し洒落ていて、地震工学の研究室の OB/OG 会にふさわしい名前と思っています。

小生の後任の永野先生についてはここで多くを語る必要もないのですが、地震工学の分野で今まさに精力的に研究を行っている新進気鋭の第一人者です。教育面でも、分かりやすい教科書を次々に著すなど、多方面に渡り積極的に活動しています。

第一回の「なみの会」では、懇親会に加えて気楽な研究発表の場を設けるなど、今までの井口研 OB/OG 会にはない新たな企画が盛り込まれています。OB/OG 会は同時期に同じ環境の下で過ごした仲間たちの繋がりの場でありますし、先輩後輩の縦の繋がりの機会でもあります。この機会に、久しぶりにひょっこり顔を出してみても如何でしょうか。特に今回は「なみの会」の発起の会でもありますので多くの方の参加を楽しみにしています。

今回も旧井口研 OB/OG の名簿の整理などの庶事は涌井栄治氏と、昨年 4 月から理科大理工学部の助教に就任した佐藤利昭氏の労を煩わしました。ご支援に厚くお礼を申し上げたいと思います。



1940 年生まれ  
 1964 年早稲田大学卒業  
 1966 年同大学院修士課程修了  
 1969 年イタリア留学 (イタリア政府留学生)  
 1970 年早稲田大学大学院博士課程退学  
 1971 年東京理科大学理工学部専任講師  
 1974 年東京理科大学理工学部助教授  
 1978 年 Univ. of Calif. San Diego 客員研究員  
 1985 年東京理科大学理工学部教授  
 2009 年東京理科大学名誉教授  
 共著に『入門・建物と地盤との動的相互作用』、『建築構造力学の最近の発展』、『建築構造力学演習 / 教科書』ほか  
 地震工学 / 耐震工学 / 工学博士

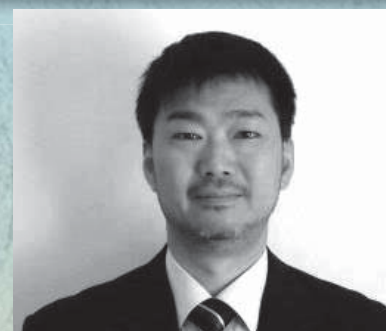
## 技術を受け継ぎ安心・安全な社会へ

永野正行

2008 年に井口先生の研究室を引き継ぎ、理工学部建築学科で地震工学系の研究室を立ち上げました。それ以前は鹿島建設に 20 年間勤め、主に耐震を専門とする技術部門で、地震動、地盤震動、地盤と建物の動的相互作用に関わる研究、超高層建物等の耐震性評価等の研究・業務に携わってきました。

大学赴任当時は全てが新しいことばかりで、慣れない事務手続き、講義準備、学生指導等に追われ、周りを見渡す余裕はありませんでした。現在は徐々にですが研究室の学生や OB/OG も増え、研究成果も生まれつつあります。現在も井口先生の人脈を通じた研究を多く行っておりますが、研究室単位でまとまって集まる機会はそれほどありませんでした。

2011 年東日本大震災を契機に、地震工学の重要性が改めて認識されています。既存の技術を継承しつつも、新しい技術を取り入れていく必要がありますが、このときに個人でできることには限界があります。そこで、①現在・過去・未来の人・技術の繋がりを重視し、②将来の大震災に対し安心・安全な社会を目指すことを目的に、当研究室と井口研による合同 OB/OG 会である「なみの会」を設立することにいたしました。本年度は建築学会大会 1 週間後の 9 月中旬に第 1 回目の研究会および懇親会を開催する予定であります。研究会では OB/OG の皆様に発表をお願いし、最新の地震工学に関するトピックを議論する場にしたいと考えております。もちろん難しい話は抜きにして懇親会だけ参加する形でも構いません。多くの皆様の参加をお待ちしております。



1964 年生まれ  
 1986 年早稲田大学卒業  
 1988 年同大学院修士課程修了  
 1988 年鹿島建設  
 2008 年東京理科大学理工学部教授  
 共著に『建築振動を学ぶ - 地震から免震、制震まで -』、『入門・建物と地盤との動的相互作用』、『建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計』ほか  
 日本建築学会奨励賞 (2000 年)、日本建築学会賞 (論文) (2013 年)、地震工学・耐震工学 / 博士 (工学) / 一級建築士

退職の折、野田建築会の会報に退職の辞を寄せたことがあるが、その中で65歳から75歳までの10年間は人生の中で最も幸福な期間であるというようなことを書いた覚えがある。この掛け替えのないGolden Decadeというべき10年間の大半をすでに使い果たしたわけであるが、この間大きな病気もせずにご過ごせたことは有り難いこととと思っている。またそのことにも増して、多くの方々から有形無形のご支援を戴いてきたことは、名状しがたいほどに有り難いことである。

同時に、改めて振り返ってみると、“少年老い易く学成り難し”を実感した10年でもあった。退職を間近に控えた数年間は研究科長やら学長の下での大学業務の補佐などの仕事に忙殺され、大半の時間を学務に費やせざるを得ない状況にあったこともあって、正直退職を待ち望んでいたのである。退職して不毛の雑務から解放され、これでやっと遣り残した研究の仕事に復帰し、集中して取り込めると意気込んでいたのであるが、そして望み通りその立場が与えられたのであるが、空白の期間が長かったせいか、中々思い通りには行かない吾人に忸怩たる思いをし、そのフラストレーションが今でも続いている。“学成り難し”である。

人生のGolden Decadeの残りはわずかであるが、木造建物の耐震性能評価の研究、あるいはライフワークとしている「建物への有効入力動に関する研究」には強い思いがあって、細々ではあってもこれからも続けてゆきたいと思っている。特に、建物への有効入力動を明らかにする研究は残された大きな課題であって、耐震設計上重要であることは今では多くの人が認めるところであるが、問題の大きさの割には研究者も少なく、また研究の進展も捗々しくない。このあたりのことは、日本建築構造技術者協会の機関誌であるStructureの最新号(2014年4月号)に特別寄稿文として拙稿を寄せているので、一読していただければ幸いである。

いずれにしても、Golden Yearsの10年延長とまではいわないが、Silver Yearsでも良いからあと5年ぐらいのおまけはないものかと、誰にお願いするでもなく、欲張りなことを考えている。

## 2013年度 永野研究室の活動概要

### 永野正行

永野研究室では、震源断層での地震波発生から、大きく揺れる建物の中の人の体感までを総合的に調査し、地震に屈しない未来を目指し日々研究に励んでいます。超高層集合住宅の地震被害に関する研究では、3.11地震時の室内被害に関するアンケート調査を行い、居住者の揺れの体感や家具の転倒状況と建物の揺れとの関係を明らかにしました。木質建物の耐震性に関する研究では、実大木造軸組架構の振動台実験に基づき、次世代を担う制振装置の開発に取り組んでいます。そのほか、理論計算による想定地震時における各地の揺れの推定や、地震時の液状化地盤における杭基礎の耐震性に関する研究を行っています。2013年には日本建築学会賞を受賞し、これらの研究成果は対外的にも高く評価されています。

### 2013年度の研究概要

- 超高層集合住宅の室内被害と居住者の体感に関する研究
- 制振装置を付加した木造軸組架構の耐震性向上に関する研究
- 理論計算に基づく地震波と長周期地震動の発生メカニズムに関する研究
- ヘルスモニタリングに基づく杭基礎の損傷評価に関する研究

(UNGA BOOK2013年度版より転載)



木造振動実験 (2013.8)



学会賞講演会 (2013.9)



登別ゼミ合宿 (2013.9)

永野研究室では、企業等との共同研究も積極的に進めています。都市再生機構 (UR) とは2011年東日本大震災以降、共同研究契約を交わし、超高層集合住宅の大地震時の応答や振動台搭乗実験やアンケート調査等に基づく体感や心理調査を行っています。強震観測を共同で実施しているゼネコン各社 (大林組、鴻池組、戸田建設、前田建設工業、三井住友建設、安藤ハザマ) や京都大学、工学院大学と研究会を組織し、今後発生する大地震に備え精力的に研究を進めています。この他にも共同研究を実施し、多くの研究成果を挙げています。

# 2013 年度永野研究室 発表論文等成果

宮本裕司, 永野正行, 藤谷秀雄, 吉村智昭:「建築振動を学ぶ-地震から免震、制震まで-, 理工図書, 2014.3

山形有紀, 佐藤利昭, 本郷貞之, 木下貴博, 永野正行, 北村春幸: 免震建物の擁壁衝突時における地盤との相互作用の影響に関する研究, 2013 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, pp.353-356, 2014.2.20-21, 東京・日本大学理工学部

木下貴博, 佐藤利昭, 永野正行, 北村春幸: 観測記録に基づく地盤との相互作用を考慮した 7 階建免震建物の上下応答解析モデルの作成と検証, 2013 年度日本建築学会関東支部研究報告集 I, pp.329-332, 2014.2.20-21, 東京・日本大学理工学部

山根義康, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敬, 山本健史, 井川望, 田沼毅彦: 2011 年東北地方太平洋沖地震時における超高層集合住宅の室内被害の分析と建物応答との対応, 日本建築学会技術報告集, 第 20 巻, 第 44 号, pp.67-72, 2014.2

野木淑裕, 永野正行, 肥田剛典, 山本健史, 保井美敬, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 東北地方太平洋沖地震を経験した超高層集合住宅の損傷推定とその後の耐震性能評価, 日本建築学会技術報告集, 第 20 巻, 第 44 号, pp.49-54, 2014.2

肥田剛典, 永野正行: 部分空間法を用いた建物の固有振動数と減衰定数の同定精度に関する基礎的検討 - N4SID 法と Ordinary MOESP 法の比較 -, 日本地震工学会・大会 2013, pp.287-288, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

吉村智昭・永野正行・久田嘉章・早川崇・川辺秀憲・Seckin Ozgur CITAK・河路薫・秋山伸一: 紀伊半島南東沖地震を対象とした数値解析手法のベンチマークテスト-大阪平野, 濃尾平野の結果-, 日本地震工学会・大会 2013, pp.179-180, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

天藤潤一・永野正行・後藤賢人・上林宏敏: 東北地方太平洋沖地震時の大阪平野沿岸部における長周期地震動増幅の成因, 日本地震工学会・大会 2013, pp.191-192, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

後藤賢人・永野正行: 南海トラフ周辺の付加体が大阪平野内の長周期地震動に与える影響評価, 日本地震工学会・大会 2013, pp.193-194, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

山根義康・永野正行・肥田剛典・田沼毅彦: 超高層 RC 造集合住宅の設計用動解モデルの分析, 日本地震工学会・大会 2013, pp.103-104, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

加藤淳・佐藤利昭・真崎雄一・井口道雄・肥田剛典・永野正行: 粘弾性制振装置の温度変化が建物応答及びエネルギー吸収量に及ぼす影響, 日本地震工学会・大会 2013, pp.325-326, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

渡邊藤一郎・肥田剛典・佐藤利昭・加藤淳・真崎雄一・御子柴正・井口道雄・永野正行: 粘弾性制振装置を付加した 1 層木造組架構の振動実験による性能評価, 日本地震工学会・大会 2013, pp.327-328, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

小山西央・永野正行: 薄層法を用いた点加力による静的応力解の精度検証, 日本地震工学会・大会 2013, pp.341-342, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

坂本あいの・永野正行・肥田剛典・山根義康・岩岡竜夫: アンケート調査に基づく 2 地震時における超高層住宅の揺れ・被害と今後の地震被害に関する意識分析, 日本地震工学会・大会 2013, pp.213-214, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

成田麻衣子・永野正行・上田遼・加藤研一・大塚康弘・引間和人・加瀬祐子: 動力学的震源モデルに基づく震源近傍の強震動に関する基礎的検討-パラメータ解析による断層破壊とパルス性地震動-, 日本地震工学会・大会 2013, pp.363-364, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

上田遼・加藤研一・大塚康弘・永野正行・成田麻衣子・引間和人・加瀬祐子: 浅部のすべり弱体化が破壊性状と震源近傍の強震動に与える影響, 日本地震工学会・大会 2013, pp.365-366, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

吉田昂希・谷田貝淳・肥田剛典・田村修次・永野正行: Penzien モデルに基づく遠心載荷実験のシミュレーション解析と建物種別による応答力の違い, 日本地震工学会・大会 2013, pp.225-226, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

山本健史・保井美敬・永野正行・肥田剛典・田沼毅彦・渡辺一弘: 超高層 RC 造集合住宅を対象とした応答力の分離と重ね合わせに関する基礎的検討, 日本地震工学会・大会 2013, pp.233-234, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

北堀隆司・永野正行・田沼毅彦: 1 階の本震記録が欠測した超高層 RC 造建物のシミュレーション解析による応答推定, 日本地震工学会・大会 2013, pp.153-154, 2013.11.11-12, 東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

永野正行: 趣旨説明, 東北地方太平洋沖地震の観測波と南海トラフ沿い巨大地震の予測波, 講習会「講習会: 長周期地震動と超高層建物の対応策 - 専門家として知っておきたいこと -, 2013.11.1, 名古屋・昭和ビル 9 階ホール, 2013.10.25, 建築会館ホール

永野正行・他: 「1.2 首都圏における長周期地震動の分析」, pp.66-72, 「1.4 長周期地震動予測にかかわる最近の動向」, pp.95-99, 「5.5 超高層建物の室内安全性評価」, pp.273-285, 「付録 4 強震記録とアンケートに基づく超高層集合住宅の調査結果」, pp.470-482, 「付録 6 収集した建物の観測記録一覧」, pp.487-513, 大振幅地震動と建築物の耐震性能評価-巨大海溝型地震・内陸地震に備えて-, 日本建築学会, 2013.10

永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘, 井川望, 伊藤真二: 2011 年東北地方太平洋沖地震時の東京湾沿岸部における基盤波推定と長周期地震動の地盤増幅特性, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 43 号, pp.849-854, 2013.10

Hida, T, S. Tamura and Nagano, M.: Effects of Pile Damage and Input Motion Characteristics on Response of Base-isolated Structure Based on Centrifuge Tests, Proc. of 13th World Conference on Seismic Isolation, Energy Dissipation and Active Vibration Control of Structures, Sendai, Japan, 2013.9.24

永野正行: 主旨説明/大振幅地震動と耐震設計の諸課題/入力地震動評価の現状と課題, 講習会「大振幅地震動と建築物の耐震性能評価 - 巨大海溝型地震・内陸地震に備えて」, 2013.9.9, 建築会館ホール

永野正行: 「3.3 強震動予測法と予測地震動のばらつき」, pp.42-64, 「8.3 自由記載に基づく意識的分析」, pp.360-367, 大振幅地震動と建築物の耐震性能評価-巨大海溝型地震・内陸地震に備えて-, 日本建築学会, 2013.9

永野正行: 日本建築学会賞受賞講演, 「地震動の増幅特性と地盤・構造物の地震時挙動の解明に関する一連の研究」, 2013.8.31, 北海道大学

吉田昂希, 谷田貝淳, 肥田剛典, 田村修次, 永野正行: 液状化地盤における杭の損傷が地震時応答性状に及ぼす影響 その 1 遠心実験の概要と応答変位法による検討, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 20285, pp.569-570, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

谷田貝淳, 吉田昂希, 肥田剛典, 田村修次, 永野正行: 液状化地盤における杭の損傷が地震時応答性状に及ぼす影響 その 2 応答変位法による損傷杭の曲げ剛性の同定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 20286, pp.571-572, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

後藤賢人, 永野正行: 3 次元差分法による東北地方太平洋沖地震時の大阪平野における長周期地震動の再現解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21095, pp.189-190, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

永野正行, 上林宏敏: 東北地方太平洋沖地震時の大阪平野内の長周期地震動特性と東西断面の地盤増幅に着目したシミュレーション解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21096, pp.191-192, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

野木淑裕, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敬, 山本健史, 田沼毅彦: 東北地方太平洋沖地震における超高層集合住宅の立体フレーム解析に基づく損傷推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21142, pp.283-284, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

小林ひかる, 三浦弘之, 肥田剛典, 三浦弘之, 翠川三郎, 永野正行, 正月俊行: アンケート調査に基づく東北地方太平洋沖地震の際の超高層建物での居住者・室内物品への影響の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21145, pp.289-290, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

山根義康, 永野正行, 肥田剛典, 保井美敬, 山本健史, 井川望, 田沼毅彦: 東日本大震災時における超高層集合住宅の建物応答推定に基づく室内被害の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21146, pp.291-292, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

上田遼, 加藤研一, 大塚康弘, 永野正行, 引間和人, 加瀬祐子: 地表付近の断層破壊が震源近傍の強震動に与える影響 - 動力学的断層モデルを用いた基礎的検討 -, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21151, pp.301-302, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

木下貴博, 佐藤大樹, 本郷貞之, 永野正行, 北村春幸: 免震建物の上下応答における建物モデルと地盤との相互作用の影響評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21264, pp.527-528, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

金子知宣, 永野正行, 上林宏敏, 肥田剛典, 田沼毅彦: 微動観測に基づく超高層鉄筋コンクリート建物の強震時における動特性変化量推定の可能性 その 1 微動観測概要と固有周期の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21294, pp.587-588, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

上林宏敏, 永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 金子知宣, 保井美敬, 山本健史: 微動観測に基づく超高層鉄筋コンクリート建物の強震時における動特性変化量推定の可能性 その 2 動特性変化量の推定, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21295, pp.589-590, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

山本健史, 保井美敬, 永野正行, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 軟弱地盤に建つ超高層 RC 造集合住宅の地震観測記録のシミュレーション解析 ロッキング入力を考慮したシミュレーション解析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21317, pp.633-634, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

井口道雄, 佐藤利昭, 真崎雄一, 浦井崇治, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造組架構の振動台実験による性能実証試験 その 1 試験体および実験の概要, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21467, pp.933-934, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

真崎雄一, 井口道雄, 佐藤利昭, 浦井崇治, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造組架構の振動台実験による性能実証試験 その 2 荷重-変形関係の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21468, pp.934-935, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

浦井崇治, 佐藤利昭, 真崎雄一, 井口道雄, 加藤淳, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造組架構の振動台実験による性能実証試験 その 3 固有振動数と等価剛性・等価減衰の分析, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21469, pp.937-938, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

加藤淳, 佐藤利昭, 井口道雄, 真崎雄一, 浦井崇治, 肥田剛典, 永野正行: 制振装置を含む木造組架構の振動台実験による性能実証試験 その 4 フレーム解析モデルの検証とエネルギー吸収量の評価, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21470, pp.939-940, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

肥田剛典, 永野正行, 金子知宣, 田沼毅彦: 超高層集合住宅における 2011 年東北地方太平洋沖地震時のアンケート調査に基づく地震時避難行動不可能率, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 21569, pp.1137-1138, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

佐藤利昭, 中島裕貴, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究 - 木-ボルト接合部の応力緩和試験 その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 22007, pp.13-14, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

中島裕貴, 佐藤利昭, 永野正行: 木造住宅の長期的な耐震安全性に関する研究 - 木-ボルト接合部の応力緩和試験 その 2, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 構造 II, 22008, pp.15-16, 2013.8.30-9.1, 北海道大学

佐藤利昭, 永野正行, 井口道雄, 真崎雄一: 粘弾性制振装置を付加した木造住宅の地震応答解析 - 木造制振住宅の耐震設計手法の構築 -, 日本建築学会構造系論文集, 第 78 巻, 第 690 号, pp.1449-1458, 2013.8

肥田剛典, 下保亮太, 吉田昂希, 谷田貝淳, 田村修次, 永野正行: 部分空間法に基づくシステム同定手法を用いた杭基礎の損傷評価, 第 48 回地盤工学研究発表会, 富山国際会議場, 2013.7.23-25

山本健史, 永野正行, 保井美敬, 肥田剛典, 田沼毅彦, 渡辺一弘: 軟弱地盤に建つ超高層 RC 造集合住宅の地震応答評価と被害との対応 -2011 年東北地方太平洋沖地震時の強震記録に基づく検討-, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 42 号, pp.447-452, 2013.6

上林宏敏, 永野正行: 超高層建物の強震観測記録に基づく増幅特性と動特性評価, 日本建築学会技術報告集, 第 19 巻, 第 42 号, pp.435-440, 2013.6

永野正行: 地震動の増幅特性と地盤・構造物の地震時挙動の解明に関する一連の研究, 2013 年日本建築学会賞(論文)業績紹介, 2013.5., 日本建築学会

## 研究室OB／OGからの便り①

中川 三夫(井口研・1973 学部卒) 1973 年卒：井口研 2 期生の中川です。卒論当時の井口先生はまだ専任講師というお立場でとても初々しかった時代の卒業生です。卒業後は、ゼネコンに就職して主に設計と研究開発に携わり、10 年程前にキューポラで有名な川口市にある鋳物会社に転職して現在に至っています。この会社では、制震・耐震装置等の開発及びその装置を用いた建物の構造設計支援を行っています。井口先生に学んだ「建築振動学」が今も生かせる仕事に就いています。



市原 嗣久(井口研・1979 学部卒) 30 歳で、千葉に戻り構造設計事務所を開業し、今年 58 歳になります。1995 年の阪神淡路の震災より、耐震診断、耐震補強設計の仕事が多くなり、昨年、一昨年では、業務量の 90% を超え、耐震判定等の委員会でも多くの物件を判定してきましたが、目を街に向けてみると、新しい建物がいっぱい建っており「誰がこんなに多くのビルを設計したんだ」と、浦島太郎の感が否めません。もうひと頑張りしなくてはと考えている今日この頃です。

青木 博(井口研・1985 学部卒) 85 年 3 月卒業の青木博と申します。井口先生はじめ会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。早速ですが、わたしは、長野県駒ヶ根市で、家族共々元気に暮らしております。(株) LIXIL という建材メーカーで、外構商品の商品開発・設計をしています。担当は、主に公共施設、民間の大規模施設回りのフェンス・ゲート・防護柵などです。公共投資の削減などから苦戦しておりますが、市民生活の安全に貢献できればと、コツコツとした活動を続けております。以上、簡単ですがご報告いたします。



涌井栄治(井口研・1987 院卒) 昭和 59 年より 6 年間井口研究室にいました。現在は構造設計事務所にて構造設計をしています。木造建築物については平成 16 年から井口研究室と始まった木造制震に関する研究が、現在も永野研究室に引き継がれています。また、理科大の非常勤講師として現在は 1 年生にコンピュータを教えています。野田市在住ということもありますが、理科大との関係が継続しており感慨深いものがあります。今後もこの状況を活かした活動をしたいと思っています。

佐野 剛志(井口研・1988 学部卒) 大林組に入社し 24 年、そのほとんどは技術研究所に籍を置き、免震・制振などに係わる開発に携わってきました。その間、免震・制振技術も、社会のニーズに応じて様変わりしたと実感する毎日です。昨年は、永年勤続休暇に虫好きの息子念願の四万十川に旅行し、47 都道府県を制覇！次の目標を模索中です。



吉田 洋之(井口研・1995 院卒) 平成 7 年度に修士課程を修了致しました。その後、東電設計(株)で建築耐震設計に関する技術開発と挙動評価を主に行っております。特に、井口先生にご指導いただいた地盤-構造物間の動的相互作用が大きなテーマになっており、そこから進展し地盤の非線形挙動評価、地盤液状化時の挙動評価、杭基礎の耐震性評価などを主に扱っております。最近は学会活動を行う機会も頂き、動的相互作用評価の普及にも尽力していきたいと思っております。

## 研究室OB / OGからの便り②



木田 英範 (井口研・1998 院卒) 1998 院卒後、三井住友建設では、主に構造設計者として超高層を含む免震や制震構造物の設計や免制震デバイスの研究開発に携わってきました。2009 年より免制震デバイスに出向し、現在に至っています。現在は、次世代の免制震デバイスの開発及び当社免制震デバイスを用いた構造設計支援、大学や設計事務所との共同研究や知財関連業務、さらに JSSI, JAVIT などの外部委員会活動も併せて行っております。また業務を通して 2010 年 9 月には東北大学で博士 (工学) の学位を取得することができました。現在も井口研で学んだ振動学の知識が生かせる仕事に就いております。

平木 隆文 (井口研・1998 院卒) 98 年 3 月卒業の平木です。私が井口研に入った 95 年は阪神大震災が起きた年でした。何気ない気持ちで選んだ井口研でしたが、井口先生の厳しくも温かい指導のおかげで卒業することができ、中部電力に就職し現在も原子力建築などの耐震関係の業務に携わっています。また、永野先生ともゼネコン時代に仕事で接する機会があり、さらに、現在出向して勤務している電力中央研究所では、北村研客員教授の金澤先生と免震・耐震関係の研究に取り組んでおり、金澤先生、北村先生にも大変お世話になっています。理科大には不思議な縁と感謝の気持ちを感じる今日この頃です。



山本 耕司 (井口研・2003 院卒) 井口研究室を卒業後、2003 年 4 月から竹中工務店の構造設計部門にお世話になり、早くも 10 年以上が経過しました。現在は東京本店でオフィスビルの設計を中心に業務を行っています。近々のメインプロジェクトは目黒駅前再開発の超高層オフィスビルになります。ゼネコン設計部の宿命として、多様なニーズに対する合理的な構造計画をローコストで実現せよ、という無理難題に日々腐心しつつも、充実した会社生活を送っております。



戸根弘希 (井口研・2004 院卒) 2004 年度卒業生の戸根弘希と申します。妻・娘 (2 歳) の 3 人家族で都内に住んでいます。自育育メンですが、嫁さんの厳しい家事の要求に答えられず悪戦苦闘しております。現在、三菱重工メカトロシステムズで工作物 (鉄塔等) や立体駐車場等の鉄骨架構の構造設計を行っています。(職場は横浜です) 今年度 4 月から、理科大：北村研と弊社とで共同研究を行っており井口研 OB である北村研佐藤助教には大変お世話になっています。母校と、仕事で接する機会を得ることができ光栄に思っています。よろしくお願い致します。



小山 哲央 (永野研・2012 院卒) 永野研第 2 期 OB の小山哲央と申します。2009 年から 2012 年までの 3 年間、永野研究室でお世話になりました。研究室時代には、解析を中心に永野先生からご指導をいただき構造解析を志すようになりました。現在は株式会社アーク情報システムの数理解析部に所属し、ソフト開発と解析を行っています。その中で、技術力を高める必要性を感じ、現在もプライベートの時間に研究室にお邪魔して研究をさせて頂いています。



加藤 惇 (永野研・2014 院卒) 2014 年 3 月に永野研を卒業した加藤惇と申します。研究室では、木造の制振をテーマに研究に取り組み、永野先生をはじめ、井口先生や佐藤さんに大変お世話になりました。また、研究室での日々の生活の中で、肥田さんをお世話したのは良い思い出です (笑)。現在は、住宅メーカーで現場監督の仕事に就き、建築士の取得を目指しつつ、先輩方や、大工さんをはじめとした各業者さんの方々と和気藹々と仕事をさせて頂いております。



## ごあいさつ 建築学科 構造系助教



肥田 剛典  
 1980年 群馬県富岡市生まれ  
 2003年 信州大学工学部社会開発  
 工学科建築コース卒業  
 2005年 千葉大学大学院自然科学  
 研究科建築専攻修士課程修了  
 2005～2007年 国土交通省  
 関東地方整備局 営繕部  
 2007～2010年 京都大学大学院  
 工学研究科都市環境工学専攻  
 博士後期課程, 博士 (工学)  
 2010～2011年 京都大学防災  
 研究所・PD 研究員  
 2011年～(現職) 東京理科大学  
 永野研究室 助教



佐藤 利昭  
 1982年 神奈川県横浜市生まれ  
 2005年 東京理科大学 工学部卒業  
 2007年 同大学院・理工学  
 研究科・修士課程修了  
 2007～2010年  
 MASA 建築構造設計室・技術主任  
 2009～2012年  
 東京大学大学院・工学系研究科  
 博士課程, 博士 (工学)  
 2010～2012年  
 日本学術振興会・特別研究員  
 2012～2013年  
 東京理科大学・PD 研究員  
 2013年～(現職)  
 東京理科大学北村研究室 助教

私が永野研究室の助教に着任して、早くも3年の月日が経ちました。東京理科大学に来る前は主に液状化地盤における杭基礎の耐震性に関する研究をしていましたが、永野研究室では超高層RC造建物や木造建物の研究にも携わらせていただき、随分と研究の幅が広がったように思います。

これに加えて、最近は建物の構造ヘルスマニタリングに関する研究をしています。これは、建物の地震時の揺れを計測し、構造的な健全性を評価するというものです。この手法に関する新たな知見を探るべく、日々研究に励んでおります。

また、私のモットーは学生と垣根を越えた関係を築き、研究をしやすい雰囲気を作ることです。言わば永野研究室の潤滑油のような存在になりたいと思っております。

今後も研究・教育とも精進して参る所存ですので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

2007年に井口研にて修士課程を修了し、現在北村研(富澤研, 中田研と言え、少しは親しみが沸きますでしょうか?)の助教として理科大に務めております。学生時代は、決して真面目では無かった自覚がありますが、ここ10年間で井口先生と最もお話したOB/OGの1人ではないかと思っています。

井口先生の退職記念でお世話になった諸先輩方には、同じくOB/OGである涌井さんと同じ設計事務所の所員として認識されておりますでしょうか。その後、貯金を切り崩して学位を取得し、理科大の繋がりがあって、一昨年度、永野先生に研究員として拾って頂き、その後、北村先生にまた拾って頂くと、振り返れば綱渡りの人生を歩んでいるように思います。

今後もおそらく行き当たりばったりが続くと思いますので、頼りがいのある諸先輩方に、この場を借りて、私の将来のお願いしつつ筆を置きたいと思っております。

## 2014年度永野研究室メンバーと研究テーマ

2014年度は建築学科全体の卒研着手者の数が多く、当研究室にも14名の卒研生が配属されました。従来からの研究テーマである超高層RC造、地盤震動、杭基礎、木造、ヘルスマニタリングに加え、本年度から連携大学院の客員准教授として石原直先生(建築研究所)から、近年の建物被害に関する重要テーマの1つである天井落下についてご指導を頂きます。建築学会大会には4年生を含め全員が参加し、その後淡路島で中間発表を含むゼミ合宿を予定しています。本年度も活発に研究活動を進めていきたいと思っております。



新卒研配属時の集合写真(2014.4)

学年	氏名	研究テーマ
M2	後藤 賢人	地震・地盤震動
M2	谷田貝 淳	液状化・杭基礎
M2	山根 義康	超高層RC
M1	酒井 美月	超高層RC・杭基礎
M1	坂本 あいの	地震時行動
M1	天藤 潤一	地震・地盤震動
M1	渡邊 藤一郎	木造
B4	秋元 宏章	天井落下
B4	太田 成昭	木造
B4	奥野 通太郎	液状化・杭基礎
B4	尾崎 哲也	ヘルスマニタリング
B4	加茂下 直明	ヘルスマニタリング
B4	河野 陸哉	木造
B4	金 幸ソク	地震・地盤震動
B4	小宮山 征義	木造
B4	成島 慶	超高層RC
B4	橋本 拓磨	地震・地盤震動
B4	藤田 俊明	超高層RC
B4	堀 愛里香	地震・地盤震動
B4	三笠 陸実	地震時行動
B4	林 松	超高層RC

# 第1回なみの会 研究会 & 懇親会 お知らせ

第1回なみの会(東京理科大学理工学部建築学科地震工学系研究室-井口・永野研-OB/OG会)を計画しております。井口・永野の講演を含む研究会と懇親会の2部形式とし、下記の要領で実施予定です。

【日時】 2014年9月20日(土) 研究会:午後4時30分~午後6時20分

懇親会:午後6時30分~午後8時20分

【場所】 森戸記念館 東京都新宿区神楽坂4-2-2 飯田橋駅より徒歩8分

研究会:第2フォーラム(1F) 参加無料

懇親会:第1会議室(2F) 会費 OB/OG 5000円 大学院生・学部生 2000円

研究会・懇親会の出欠の返事をメール(なみの会事務局, [iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp](mailto:iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp))もしくは同封のハガキにて、7月末日までにお知らせください。

懇親会だけでも構いません。同年代の方々をお誘い合わせ下さい。多くの皆様の参加をお待ちしております。



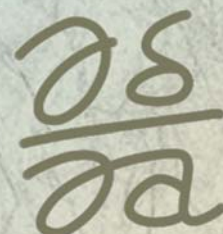
研究会および懇親会の場所



森戸記念館 第2フォーラム  
(東京理科大学 HP より転載)

## 「なみの会」について

「なみふる」は地震を意味する古語で、「なみ」は地盤、大地を意味します。「なみ」だけで地震を意味するという説もあるようです。井口研、永野研では地震とともに地盤も主な研究対象となっていることから、OB/OG会の名称を「なみの会」としました。会の名称は肥田さんの提案によるものであり、右のロゴマークも手がけています。



## 事務局からのお知らせ

現在、井口研・永野研 OB/OG 会の名簿を整理しています。同封のハガキにて、最新の連絡先等を記入して返送していただけますでしょうか。また、LINE や FACEBOOK 等でお知り合いの OB/OG の方がおりましたら、メール等にて事務局までお知らせください。

なみの会事務局 [iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp](mailto:iguchi-nagano-lab@rs.tus.ac.jp)

〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学理工学部建築学科 永野研究室

(担当：永野正行，涌井栄治，佐藤利昭，肥田剛典)



絵・肥田剛典